



セコムあんしん情報センター
SECOM

12月
2013年

株主通信

第53期中間報告書

2013年4月1日から2013年9月30日まで

セコム株式会社

2020年までに 近未来の「安全・安心」を商品化する

当期に開発・発売した新サービス、
ALL SECOMショールーム「MIRAI」、
2020年に開催される東京五輪について、
セコムが考える当社の役割を、
社長の前田修司からご説明させていただきます。

前田 修司

セコム株式会社 代表取締役社長



上半期の連結売上高・営業利益・経常利益および純利益 が過去最高を更新しました。要因は何だとお考えですか。

セキュリティサービス事業と情報通信事業が伸びた
ことが大きな要因です。

セキュリティサービス事業では、事業所向けおよび
家庭向けのオンライン・セキュリティシステムや安全商
品の販売が引き続き順調で、中でも防犯機能と出入管
理機能を一体化した「セコムLX」と防犯機能と設備制
御機能を一体化した「セコムFX」は、経費節減効果が見

込めることもあって好調でした。情報通信事業では、昨
年10月に連結子会社になった(株)アット東京の売上が
大きく寄与しました。

新しいサービスやシステムを次々と開発・発売し、 大きな反響を呼びましたね。

セコム創立50周年記念イベントのALL SECOM「セ
コムフェア2012」で、「セキュリティ」「超高齢社会」「災
害・BCP*・環境」を切り口に37のサービスやシステム

を創出していくことを表明しました。その第1弾が昨年12月に発表した自律型の「小型飛行監視ロボット」です。

そして4月には、高齢者救急時対応サービス「セコム・マイドクタープラス」を発売しました。高齢者の転倒対応や救急時には事前にお預かりした救急情報を専用端末に送信し、医療機関などからの要請があれば救急情報に努めるこのサービスも画期的なものとして大きな反響を呼びました。

また9月には、災害情報を収集・解析し、いち早く届ける「リアルタイム災害情報サービス」の提供を目指し、これらの情報の収集・解析・配信を行う「セコムあんしん情報センター」を新設しました。

セコム本社1階にオープンしたALL SECOMショールーム「MIRAI」の目的は何か。

「MIRAI」(ミライ)は、進化し続けるセコムグループの総合力を最新映像で紹介するショールームです。しかし、ショールームでありながら、実物の機器がひとつもないのが大きな特徴です。

「MIRAI」は、「セキュリティ」「超高齢社会」「災害・BCP・環境」の中で、お客様が関心をお持ちの課題や将来に対する備えについてディスカッションしながらその課題を解決し、お客様に合ったサービスを創り上げていく空間です。

見学される場合は、セキュリティや防災、BCP、メディアカルなど、お客様に関心のあるテーマを事前にお伺いさせていただくため、企業の方々を中心に、完全予約制にしています。

2020年、東京で五輪が開催されることが決定しました。セコムグループにも期待が寄せられることでしょう。

セコムの前身である日本警備保障にとって大きな飛躍のきっかけになったのが、1964年の東京五輪でした。その後、セコムは、札幌、長野の冬季五輪、大阪、愛知で開催された万博、日韓ワールドカップ、大阪世界陸上、北海道洞爺湖サミット、ロンドン五輪などにも携わってきました。

こうした国際イベントで蓄積してきた豊富な経験とノウハウを2020年の東京五輪で活かしたいと思っています。7年前には現在のスマートフォンやSNS*などの普及が予想できなかったように、7年後には予想できないような技術革新が起こり、IT技術を駆使したセキュリティが本流になると考えています。そこで、2025年までに実現する予定だった近未来システムを2020年までに前倒して創り上げます。そして最新の技術を活用し、他産業とも連携を図り、“ALL JAPAN”体制で世界に「安全・安心」をお届けしたいと考えています。

セコムグループの組織・社員が一段と活性化してきていますね。

セコムはもちろんグループ会社も明るく元気になってきています。進むべき方向と役割が明確で、結果が出ているからだと思います。また、新しいサービスやシステムを次々と開発・商品化することで、セコムグループに対する期待度が高まっています。そうした社会やお客様からの期待に、“ALL SECOM”(セコムグループの総力の結集)で応えていきます。

※ BCP=事業継続計画
※ SNS=ソーシャル・ネットワークキング・サービス

「安全・安心」そして「快適・便利」をトータルに提供

セキュリティサービス事業

セコム(株)を中心に、企業・家庭・個人向けのセキュリティサービスを提供しています。



企業向けにはオンライン・セキュリティシステムをはじめ、大規模施設向け安全管理システム、

安全商品、常駐警備、現金護送を提供しています。

家庭向けには「セコム・ホームセキュリティ」をはじめ、マンション向けセキュリティ、安全商品を提供しています。今年4月には、超高齢社会を支えるサービスとして、お客様の救急情報をお預かりし、万一のときには転倒対応の訓練を受けた緊急対応員が駆けつける「セコム・マイドクタープラス」を提供開始、「安全・安心」の幅を広げています。

また、屋外を移動する人・車・物の位置情報検索機能や緊急通報機能を備え、いざというときは緊急対応員が駆けつける屋外用携帯緊急通報システム「ココセコム」を提供しています。

これからも、これまでのセキュリティの概念

を一新するシステムを次々と開発し、社会の「安全・安心」のニーズに応えていきます。

防災事業

セコムの防災事業を担う能美防災(株)およびニッタン(株)では、防災システムの研究開発、設計、生産、施工、メンテナンスまで一貫して提供しています。

ビル、地下街、文化財、プラント、トンネル、船舶、集合住宅などで、防災システムの提供により、お客様の人命と財産を守っています。

現在、セコム、能美防災、ニッタンの3社の力を結集して、従来の枠を超えた、自然災害



にも対応できる新しい防災システムの開発に取り組んでいます。

メディカルサービス事業

セコム医療システム(株)を中心に、医療、介護・福祉、健康・予防の分野でトータルなメディカルサービスを提供しています。

医療分野では訪問看護と薬剤提供を柱とした在宅医療サービスやセコムの提携病院・クリニックの運営支援、遠隔画像診断支援サービス、電子カルテなどを提供しています。

介護・福祉分野では訪問介護と通所介護サービスを提供、シニアレジデンスと介護付有料老人ホームを運営しています。今年11月には、高まる超高齢社会のニーズに応え、セ

コムのメディカルサービス事業のノウハウを活かし、サービス付き高齢者向け住宅、通所介護サービスなどが一体となった



高齢者向け複合施設「セコムカリアあざみ野」を横浜市青葉区にオープンしました。

健康・予防分野では、会員制健康クラブや電話健康相談サービス、予防医療サービス、オリジナル健康商品の販売を行っています。

保険事業

セコム損害保険(株)では、ホームセキュリティを導入されている場合に、お住まいの保険料が割引になる「セコム安心マイホーム保険」や、事故現場にセコムの緊急対応員が駆けつける「セコム安心マイカー保険」など、セ

コムグループならではの独創的な保険を開発・販売しています。

また、自由診療でも公的保険診療でも、ガン治療にかかった入院治療費の自己負担分を実額補償するガン保険「自由診療保険メディコム」も、その商品性が支持され高い評価を得ています。これからもセコムグループの総合力を活かし、ユニークな保険商品を販売していきます。

地理情報サービス事業

(株)パスコは、航空機や車両、人工衛星、船舶を利用した測量や計測で、地理情報データを集積し、加工・処理・解析した空間情報サービスを国内外の官公庁や自治体、企業に提供しています。

空間情報サービスは、社会インフラの整備・維持・管理や企業の戦略立案・危機管理などに不可欠なものです。パスコはこれからも独自の情報の収集、処理における高い技術力とデータセンターを活用することで、行政や民間企業の基幹システムの運用、維持を支援していきます。



また、環境保全や防災、減災にも注力し、暮らしやすい街づくりに貢献していきます。

情報通信事業

セコムグループの情報通信事業では、情報セキュリティと大規模災害対策・BCPを柱にした事業を展開しています。

高度化・複雑化する情報ネットワーク社会において、情報の安全を確保することは不可欠です。昨年10月、(株)アット東京がグループ入りし、セコムグループは、日本最大規模のデータセンター事業会社となりました。

堅牢なデータセンターサービスを提供するとともに、データセンターを拠点として、サイバー犯罪対策などのサービスも提供しています。

また、セコムトラストシステムズ(株)では今年8月に大阪、11月には東京に新たに独自のデータセンターを開設するなど、高まるデータセンター需要にえています。

大規模災害対策の分野では、有事の際には事業の継続、早期再開を支援する「セコム安否確認サービス」シリーズを提供しています。今年9月には、災害発生時に正確で信頼で



きる防災情報をお届けするための「セコムあんしん情報センター」を新設し、次世代防災サービスの提供を目指していきます。

セコムグループのセキュリティや情報セキュリティに関する技術力や機動力、そして経験を通じて「安全・安心」な社会の構築に貢献していきます。

不動産・その他の事業

セコムホームライフ(株)は「安全・安心で高品質な住まい」をコンセプトにしたマンションを開発し、「グローリオ」のブランドで販売しています。セコムならではの最新のセキュ

リティシステムを導入するだけでなく、防災にも配慮した住まいを提案しています。

また、入居後のお困りごとに24時間365日体制で応える「グローリオサポート24」を提供しているのも大きな特長の一つです。

超高齢社会の中にある現在、ますます「安全・安心」な住まいが求められています。セコムではホームセキュリティのお客様向けサービスである生活支援サービス「セコム・ホームサービス」をはじめ、いつでもさまざまなお客様のニーズに応えられるサービスの拡充に努めていきます。



「リアルタイム災害情報サービス」の提供を目指す 「セコムあんしん情報センター」を新設

大規模災害が発生した際、信頼できる情報を入手することは私たち一人ひとりが命を守るために大切であり、企業にとっては事業を継続するために重要です。

セコムは現在、日本最大規模のセキュリティネットワークや独自の情報を駆使し、さらにツイッターやフェイスブックなどのSNSや公的機関が発信する情報といった多くの情報(ビッグデータ)を集約し、確度の高い有効な情報をお客様に提供する「リアルタイム災害情報サービス」の提供を目指しています。

今年9月に新設した「セコムあんしん情報センター」では、24時間365日のオペレーション体制で災害情報を収集・解析することで、信頼度の高い情報をお客様に提供することができます。この情報を利用することで、お客様は有効な情報にもとづき、安全な避難や事業継続の判断・指示に専念することができます。

セコムは、セコムグループが持つ情報解析技術や24時間365日のオペレーション体制、全国約2,830カ所の緊急発進拠点を活用し、“ALL SECOM”で「安全・安心」を提供していきます。



独自の解析技術で確度の高い災害情報を提供

セコムトラストシステムズ(株)が警視庁と共同対処 増加するサイバー犯罪防止に協力

6月、情報通信事業を担うセコムトラストシステムズ(株)は、悪質・巧妙化するサイバー犯罪防止を目指し、データセンター事業会社として初めて警視庁と共同対処協定を締結しました。

サイバー犯罪は、被害に遭っていることに気付きにく

いことや、被害を認識しても専門知識や技術がないと被害の実態把握が難しく、警察への通報が困難で事件化できないことが、犯罪防止の障害となっていました。



お客様の情報資産を守る
「セキュアデータセンター」

セコムトラストシステムズは、ご要請を受けて、被害に遭ったお

お客様の元へ情報セキュリティのプロが緊急出動し、被害の実態の確認・証拠の保全・痕跡調査を実施するサービスや、被害拡大防止、早期復旧、今後のセキュリティ強化の支援などを24時間365日提供しています。

今回の警視庁との共同対処協定の締結は、こうした経験や技術力、対応力がサイバー犯罪撲滅に有効であると判断された結果です。セコムグループは、これからもサイバー空間の「安全・安心」の提供に努めていきます。

超高齢社会のニーズに応える新サービス 「お元気コールサービス」と「お元気訪問サービス」

4月、超高齢社会のニーズに応える「セコム・ホームセキュリティ」の新しいオプションサービス「お元気コールサービス」と「お元気訪問サービス」の提供を開始しました。

65歳以上の人口が3000万人を超えた日本では、高齢者の孤独死の防止や離れて暮らす家族の安否確認の

ニーズが高まっています。

「お元気コールサービス」は、メディカルサービスを担うセコム医療システム(株)のコール担当者が月1回ご利用者の健康状態などを

電話でお伺いし、ご家族に報告します。

また、「お元気訪問サービス」は、セコムが厳選したパートナー会社のスタッフが月1回ご利用者宅を訪問し、日常生活の様子を確認し、ご家族に報告します。

セコムグループの経営資源を活用した、セコムならではの高齢者の暮らしを見守る新サービス。これからもご利用者ご本人とご家族に大きな安心を“ALL SECOM”で提供していきます。



高齢者の様子を電話や訪問で確認

セコム初の高齢者向け複合施設 「セコムカリアあざみ野」をオープン

超高齢社会となった現在、介護・福祉施設の重要性はますます高まっています。

11月、高齢者がより生き生きと生活することができる社会の構築を目指し、サービス付き高齢者向け住宅「リーフエスコートあざみ野」、デイサービス「セコムシニア倶楽部あざみ野」、地域交流スペース「カリア」が一体となった、セコム初の高齢者向けの複合施設「セコムカリアあざみ野」を横浜市青葉区にオープンしました。

現在、セコムグループではシニアレジデンス4カ所と、介護付有料老人ホーム9カ所、デイサービス5カ所の運営を行っています。いずれもセコムグループ独自のコンセプトで、介護の不安や負担を感じることなく、日常をお過ごしいただけるよう努めています。

「セコムカリアあざみ野」はセキュリティやメディカルサービスで培ってきたノウハウを最大限に活かすとともに、地域との交流を行うスペースを設けることで、ご入居者だけでなく、地域住民の方にとっても不可欠と

なる地域に根差したメディカルサービスの拠点となることを目指していきます。



超高齢社会を支える地域の拠点
「セコムカリアあざみ野」

セコムグループの技術力・ノウハウとお客様の声で 社会の潜在ニーズに応える革新的な「安全・安心」を提供

■ IS 研究所の役割を教えてください。

一言で言うと、セコムの未来を創り続けることがIS研究所の一番大切な役割です。具体的には、セコムグループが提供するすべてのサービスに必要な未来技術として、高度画像処理、センシング、情報通信技術などに加えて、サービスそのものも対象として、先端的な研究開発を進めています。

また、「安全・安心」そして「快適・便利」な社会の構築を目指して、さまざまな社会現象の研究にも力を注いでいます。

■ 研究開発中の自律型の「小型飛行監視ロボット」が注目を集めていますね。

昨年12月、民間防犯用として世界初の自律型の「小型飛行監視ロボット」を開発しました。このロボットは、ご契約先の敷地に不審な車や人が侵入すると、セコムのさまざまなシステムと連携して速やかに侵入を検知、迅速に不審物をとらえて必要な画像情報をセコムに無線送信し、一秒で

セコムの研究開発
R&D

IS 研究所



セコムが常にセキュリティ業界をリードし続けている理由は、独自の研究開発体制で、新しいシステムを世に送り出していることにあります。今回は最先端のセキュリティシステムの研究を行うIS研究所をご紹介します。

IS 研究所運営管理グループ
グループリーダー 池野 修一

Shuichi Ikeno

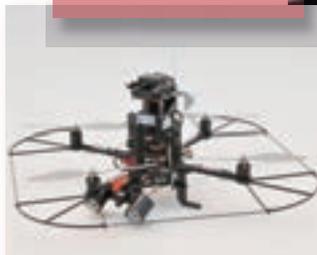
も早く異常を発見し、より正確に状況を把握することにより犯罪を抑止します。

このロボットは、IS研究所が培ってきた多くの技術と、セコムのセキュリティにおける豊富なノウハウを融合させ、活用したもので、まさにセコムならではの未来技術と自負しています。

■ これからも最先端のサービスやシステムの研究が期待されます。

研究開発からサービス提供まで一貫体制で提供しているセコムは、世界的に見てもユニークな企業グループです。

IS研究所はこれからもグループの全社員と共に、社会とお客様の声に耳を傾け、最先端技術の研究開発を進めることで、社会とお客様の期待に応えていきます。



訪問看護のパイオニアとしての経験とノウハウで ご利用者のご家族も安心の療養生活を

■ セコムが訪問看護サービスを提供する意義を教えてください。

在宅療養が必要であっても不安なく安心して過ごしていただくことも「安全・安心」の一つと考え、セコムは1991年に民間企業として、日本初の本格的な訪問看護サービスと薬剤提供サービスをはじめました。

訪問看護サービスについては、現在、全国に32カ所ある訪問看護ステーションを拠点に、主治医の指示のもと、医療処置やリハビリの提供をはじめ、医療従事者の視点を持ちながら、ご利用者やご家族からの療養相談や介護相談にも応じています。

■ 多岐にわたる症例の看護が求められますね。

末期がんの方、難病の方、障害をお持ちの方など、ご利用者はさまざまで、幅広い医療知識と技術が求められます。セコムの訪問看護サービスは全国でサービスを提供しているため、多くの症例や情報を共有でき、経験も豊富です。

また、独自の研修プログラムにより、先輩看護師の同行訪問やテクニカル研修を行うことで、医療依存度の高い看護にも対応

セコムのフィールド

Field

セコム医療システム(株)

セコムさいたま
訪問看護ステーション



防犯や防災だけでなく健康面でも「安全・安心・快適・便利」を提供するセコム。今回は、セコム医療システム(株)が提供する訪問看護サービスの取り組みをご紹介します。

セコム医療システム(株)
セコムさいたま訪問看護ステーション
所長 三浦 永津子

Etsuko Miura

できます。また、質の高い訪問看護師の育成を目指し、コーチングやマネジメント研修も実施しています。

■ 今後、訪問看護サービスのニーズが高まると考えられます。セコムが目指す訪問看護サービスのあり方を教えてください。

ご利用者に穏やかな生活を送っていただくことと、最期を迎えられるときには、充実した人生だったと思っていただけるよう、これからも、ご利用者とご家族に寄り添う看護の提供に努めていきます。

また、医療機関、主治医の先生、ケアマネージャーとも連携することで、安心して在宅療養できる看護を提供していきます。「1訪問1笑」、訪問したらご利用者とご家族に笑顔が生まれるように心がけながらご利用者と向き合い続けていきます。

「セコム」はセキュリティサービスの代名詞 国や地域のニーズに応え高品質なサービスを提供



セコムグループはセキュリティの枠を超えて、防災、メディカルサービス、地理情報サービス事業でも海外に展開。現在20の国と地域で「安全・安心」を提供しています。

セコムグループが海外事業を行うときに大切にしているのは、その国や地域のニーズに応えるサービスを提供することです。

たとえばセキュリティ事業を展開するときには、その国や地域に必要なシステムやサービスをパートナー企業とともに提供しています。

セコムは1981年にサムスングループとの合併により(株)エスワンを設立し、韓国初のオンライン・セ



エスワンのコントロールセンター



キュリティシステムの提供を開始しました。そして現在では、韓国トップのセキュリティ企業として多くの企業、家庭に「安全・安心」を提供しています。今では、

「セコム」という言葉がセキュリティサービスを表す代名詞になっているほどです。

そのエスワンでは5月、韓国・水原市と、

一定の条件を満たす一人暮らしの女性に、防犯サービスやセキュリティのプロによる駆けつけサービスを提供するという協定を締結しました。

また、6月にはスマートフォンやパソコンを使い、ご自宅のセキュリティから照明の制御までできる共同住宅専用のホームセキュリティの販売を開始するなど、変化し続ける社会のニーズに応える「安全・安心」をタイムリーに提供しています。

セコムグループはこれからも多くの国と地域で「安全・安心」を提供し続けていきます。



エスワンの緊急対応員



あらゆる不安に応えるエスワン

国民栄誉賞受賞の長嶋茂雄さんの 新テレビCMなど広告宣伝を展開

5月、プロ野球・読売巨人軍終身名誉監督の長嶋茂雄さんが国民栄誉賞を受賞されました。長嶋さんには、1990年以来24年間セコムのイメージキャラクターを務めていただき、テレビCM



10年振りに撮影された長嶋茂雄さんのテレビCM

の中での「セコム、してますか?」のキャッチフレーズは広く知られるようになりました。そして、「セコム・ホームセキュリティ」はこのキャッチフレーズが有名になると歩調を合わせるように、普及してきたと言っても過言ではありません。

このたびセコムは、長嶋さんの新テレビCMを制作。4月25日からセコムの提供番組で放送されている「長嶋茂雄さんとセコム」編は、10年振りに長嶋さんがセコムのテレビCMに登場したこともあり大きな注目を集めています。

また、5月には東京ドームにある長嶋さんのビッグボード(大看板)のデザインを刷新。7月30日から8月11日まで東京・押上の東京ソラマチで開催された「長嶋茂雄・松井秀喜の絆」展にも特別協賛しました。セコムはこれからも長嶋さんのご活躍を応援させていただくとともに、ホームセキュリティの普及に努めていきます。

「ツイッター」と「フェイスブック」の フォロワー数とファン数が合わせて10万人を突破

セコムが、2011年1月から開始した「ツイッター」のフォロワー数、ならびに同年11月から開始した「フェイスブック」のファン数(いいね!数)が、それぞれ5万人に達し、合わせて10万人を突破しました。

社会を取り巻くリスクや不安はますます複雑で多様化しています。お子さんの殺傷事件や交通事故、女性の深夜の帰宅を狙うひったくりや暴漢、高齢者の被害が多い振り込め詐欺、家庭内事故、集中豪雨、台風など、社会でさまざまな不安やリスクが増大しています。

セコムではこうした不安やリスクを防いだり、軽減するための防犯・防災対策、また、日々の暮らしの「安全・安心」に関するあらゆる情報や食に関する情報などを提供し、皆さまの生活のお役に立てればと考えています。

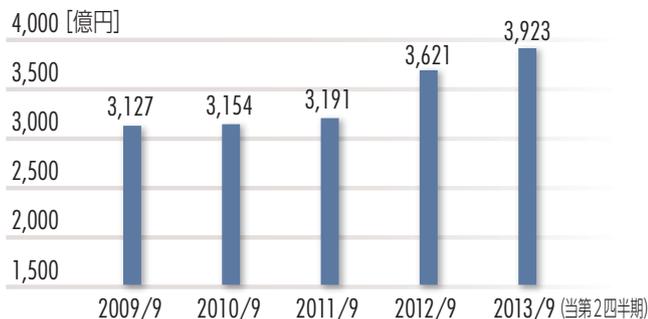
これからも「ツイッター」、「フェイスブック」をはじめ、成長を続けるSNSへのセコムの積極的な取り組みにご期待ください。



「安全・安心」に関する情報を提供
(上が「フェイスブック」、下が「ツイッター」)

連結決算 業績ハイライト — 第2四半期累計

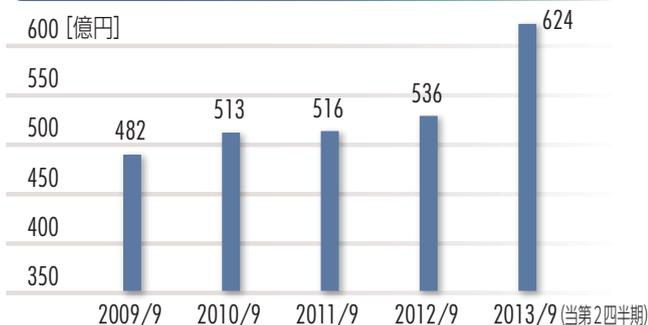
売上高



営業利益



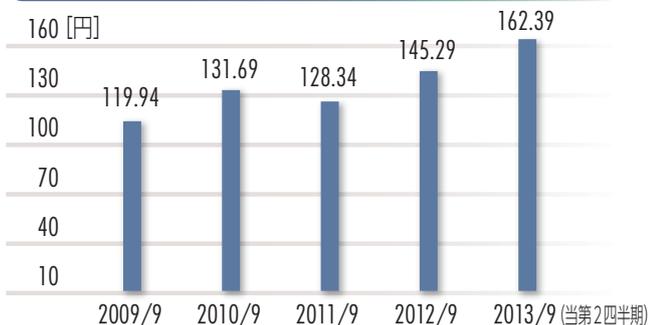
経常利益



四半期純利益

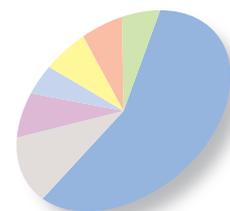


1株当たり四半期純利益



事業別売上高内訳 2013/9 (当第2四半期)

● セキュリティサービス事業	2,281 [億円]	58.1%
● 防災事業	495	12.6%
● メディカルサービス事業	278	7.1%
● 保険事業	171	4.4%
● 地理情報サービス事業	237	6.1%
● 情報通信事業	232	5.9%
● 不動産・その他の事業	226	5.8%



連結貸借対照表(要旨) — 第2四半期末

2013年9月30日現在

<単位: 億円> *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部

流動資産	4,798
現金及び預金	1,853
現金護送業務用現金及び預金	522
受取手形及び売掛金	794
未収契約料	238
有価証券	80
リース債権及びリース投資資産	270
たな卸資産	336
販売用不動産	183
繰延税金資産	137
短期貸付金	26
その他	354
固定資産	7,642
有形固定資産	3,645
建物及び構築物	1,556
警報機器及び設備	697
土地	1,149
その他	241
無形固定資産	540
投資その他の資産	3,456
投資有価証券	2,435
長期貸付金	440
前払年金費用	199
繰延税金資産	103
その他	277
繰延資産	0
資産合計	12,440

負債の部

流動負債	2,111
支払手形及び買掛金	329
短期借入金	387
一年以内償還予定社債	14
未払金	247
未払法人税等	233
前受契約料	318
その他	581
固定負債	2,426
社債	115
長期借入金	192
預り保証金	365
退職給付引当金	170
保険契約準備金	1,375
その他	207
負債合計	4,538

純資産の部

株主資本	6,975
資本金	663
資本剰余金	830
利益剰余金	6,218
自己株式	△ 736
その他の包括利益累計額	△ 59
少数株主持分	987
純資産合計	7,902
負債純資産合計	12,440

連結損益計算書(要旨)―第2四半期累計

<単位: 億円> *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	当第2四半期 累計(2013年4月1日から 2013年9月30日まで)	前第2四半期 累計(2012年4月1日から 2012年9月30日まで)	増減率
売上高	3,923	3,621	8.3%
売上原価	2,582	2,373	
売上総利益	1,340	1,248	7.4%
販売費及び一般管理費	772	744	
営業利益	567	503	12.8%
営業外収益	78	59	
営業外費用	22	26	
経常利益	624	536	16.3%
特別利益	1	2	
特別損失	1	7	
税金等調整前四半期純利益	624	531	17.5%
法人税、住民税及び事業税	229	201	
法人税等調整額	0	△3	
少数株主損益調整前四半期純利益	395	333	18.4%
少数株主利益	40	16	
四半期純利益	354	317	11.8%

営業の概況(連結)

当第2四半期連結累計期間における売上高は3,923億円(前年同期比8.3%増)、営業利益は567億円(前年同期比12.8%増)、経常利益は624億円(前年同期比16.3%増)、四半期純利益は354億円(前年同期比11.8%増)となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間の売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益はいずれも過去最高を達成することができました。

<参考>	●連結子会社数	170社
	●持分法適用関連会社数	25社
	●1株当たり四半期純利益	162円39銭

会社概要

セコム株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-1
Tel: 03-5775-8100 Fax: 03-5775-8902

- 資本金 66,377百万円
- 社員数(グループ総数) 51,133名(2013年3月31日現在)
- 事業内容

1962年、日本初の警備保障会社として創業。

1966年に日本で初めて開発したオンラインによる安全システムは、今では家庭や店舗、オフィスビル、金融機関、大規模商業施設などさまざまな施設に普及しています。

2001年からは、移動する人物・車両向けの新たなセキュリティサービスを開始したほか、常駐警備システムや現金護送システムの提供、各種安全商品などの販売を通じて、社会に「安全・安心」を提供しています。

セコムグループは、社会にとって「安全・安心」で、快適で便利なサービスやシステムを次々に創造し、それらを統合化・融合化して、トータルな新しい社会システムとして提供する「社会システム産業」の構築を目指しています。

取締役(2013年11月30日現在)

取締役(最高顧問)	飯田 亮
取締役(最高顧問)	戸田壽一
代表取締役社長	前田修司
取締役副社長	佐藤興一
常務取締役	中山泰男
常務取締役	伊藤 博
常務取締役	安齋和明
取締役	吉田保幸
取締役	中山潤三
取締役	布施達朗
取締役	古川顕一
取締役(社外)	廣瀬篁治*
取締役(社外)	澤田貴司*

監査役(2013年11月30日現在)

監査役(常勤)	坂本正治
監査役(常勤)	桑原勝久
監査役(社外)	常松 健*
監査役(社外)	加藤秀樹*
監査役(社外)	関家憲一*

*印の5名を独立役員として
東京証券取引所に届け出ております。

執行役員(2013年11月30日現在)

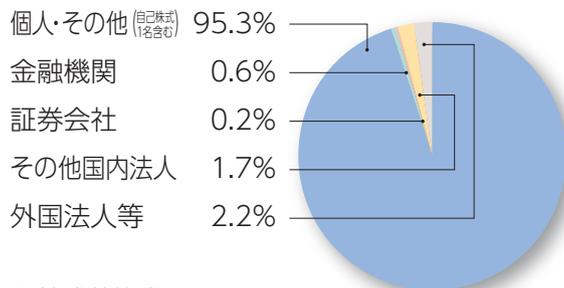
代表取締役社長	前田修司
取締役副社長	佐藤興一
常務取締役	中山泰男
常務取締役	伊藤 博
常務取締役	安齋和明
常務執行役員	小河原俊二
常務執行役員	中村直英
常務執行役員	向井俊之
常務執行役員	竹田正弘
常務執行役員	吉村輝壽
取締役	吉田保幸
取締役	中山潤三
取締役	布施達朗
取締役	古川顕一
執行役員	伊東孝之
執行役員	高岡 実
執行役員	森下秀生
執行役員	小松崎常夫
執行役員	小松良平
執行役員	新井啓太郎
執行役員	園田博道
執行役員	石川 博
執行役員	杉本陽一
執行役員	泉田達也

Information

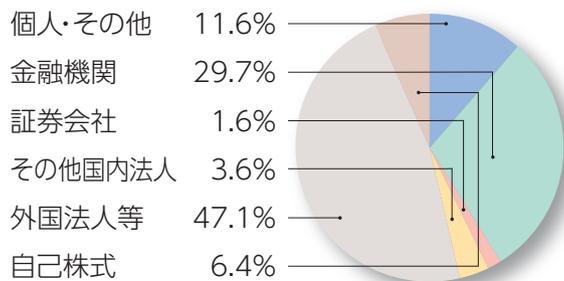
株式の状況 (2013年9月30日現在)

1. 発行可能株式総数 900,000,000株
2. 発行済株式の総数 233,288,717株
3. 単元株式数 100株
4. 株主数 25,511名
5. 所有者別状況

● 株主数比率



● 株式数比率



表紙写真のご説明

セコム
あんしん情報センター
(東京都)

今年9月に開設したセコム独自の災害情報を収集・解析するセンター。災害が発生した際に、安全に避難するためには避難情報が不可欠です。また、企業においては迅速な初動対応による事業継続が大切です。これらを円滑に実行できるよう「セコムあんしん情報センター」は、24時間365日体制で、セコム独自のシステムや解析技術を使い、災害情報を収集・解析し、確度の高い有効な情報をお客様に提供することを目指しています。



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月下旬
- 剰余金配当の基準日 3月31日
- 中間配当制度 なし
- 上場証券取引所 東京証券取引所
- 証券コード 9735
- 公告方法 電子公告

<http://www.secom.co.jp/koukou/>

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

- 株主名簿管理人 特別口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社

株式に関する各種手続きについて

証券会社に口座がある
株主様は…

▶ 口座がある証券会社へ
お問い合わせください。

特別口座に記録されている株式の
株主様は…

▶ 下記の特別口座管理機関
三菱UFJ信託銀行(株)へお問い合わせください。

未払い配当金のお支払いに関する
お問い合わせは…

▶ 下記の株主名簿管理人
三菱UFJ信託銀行(株)で承ります。

株主名簿管理人・特別口座管理機関 **三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部**

〒137-8081

東京都江東区東砂7丁目10番11号

☎ 0120-232-711 [平日 9:00~17:00]

手続用紙のご請求

☎ 0120-244-479 (音声自動応答)

インターネットからのダウンロード <http://www.tr.mufig.jp/daikou/>